

第４回：ネジドの放牧と近代的農地の拡大

前回報告したジャバル地域の北にはネジド（Nejd）と呼ばれる広大な不毛の沙漠地帯が広がっている。この地域は南側に隣接するジャバル地域から多くのワジが出ている。南から北に行くに従い土漠、そして北に砂漠となり、サウジアラビアのルブアリハリ砂漠へとつながっている。これまではこの地域ではベドウィンが遊牧でらくだの飼育を行っていたのと小規模のオアシスでのデーツ栽培が行われてきた程度で、人口も非常に少なくほとんど利用価値のない場所とされていた。

しかし、石油開発に伴う資源調査の過程でネジドには豊富な水資源があることがわかり、近年その開発が進められている。1986年に初めてのセンターピポット（同心円状に回るスプリンクラーシステム）が導入されて以来、今日まで約900ha（一部運用を中止しているものもある）の耕作地がネジド地方に出現している。ここで栽培されているのは一部ではメロン、アルファルファなどがあるが、ほとんどがローダスグラス（イネ科の牧草）で、山岳地域の家畜（主に牛）とネジドのらくだの飼料として使われており、現在ではこれら家畜飼料の重要な供給基地にな

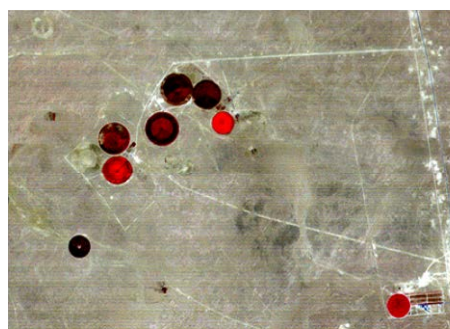
っている（以前はその多くがオマーン北部やサウジから輸入されていた）。

このような牧草栽培地帯として重要な位置を占めつつあるネジドではあるが、反面、農地の拡大に伴う問題点も指摘されてきている。開発当初、豊富と思われていた水資源ではあるが、地下水の汲み上げによる地下水位の低下が問題となってきた。自噴井戸より出る水の圧力だけで水を供給していた農地がその後の水圧の低下で水を得ることができなくなり放置されてしまったり、水位の低下で水中ポンプの位置を下げざるをえなくなっている農場なども多くなっている。

このような状況から新規農地の開発については現地政府も慎重になってきており、新規の井戸の掘削や農地開発は基本的に規制されているが、現実には多くの場所でフェンス囲いなどが見受けられ、開発の準備が進められようとしている。



ネジド地域の衛星写真：
白いワジ、中央部は土漠、北西に
黄色い砂漠



ネジドの沙漠地帯の農場：
赤く丸い牧草栽培地が点在する



ジャバルから出るワジ



センターピポットで栽培されるメロンと牧草

お詫びと訂正：前回号山岳地域の家畜推定頭数は牛 147,000 頭、ラクダ 47,000 頭、ヤギ 89,000 頭と訂正し、お詫びいたします。